

鳥取県有種雄牛 ‘元花江’^{もとはなえ}

1 ‘元花江’の造成

(1) 背景・目的

畜産試験場では優秀な種雄牛の造成を期待する農家要望に応え、鳥取県和牛改良方針に基づき、県内和牛の改良を促進するために独自性の高い種雄牛造成に取り組んでいる。

その種雄候補牛の遺伝的産肉能力を判定する現場後代検定を2003年から実施し、22頭が種雄牛として選抜されてきた。2019年2月に新たに‘元花江’が好成績で選抜されたので紹介する。



‘元花江’の血統

安福久 黒原4416 (85.5) [栃木・那須]	安福165の9 黒原1683 (81.0) [岐阜・高山]	安福(岐阜) 黒育180 (83.4) しげふじ13の7 黒高67760 (80.0)
	もとじろう 黒1868119 (82.5) [栃木・那須]	紋次郎 黒高938 (84.1) もとひかり 黒原645592 (81.1)
もとはな2 黒原1487544 (82.1) [栃木・那須]	第1花国 黒12510 (82.8) [青森・つが]	北国7の8 黒原1530 (86.7) あおはな 黒高140927
	なつあき 黒2079038 (79.0) [栃木・那須]	安福165の9 黒原1683 (81.0) もとじろう 黒1868119 (82.5)

育種価評価(遺伝的能力評価値)

2019年9月評価

肉質の形質	元花江	県内雌牛平均
枝肉重量	-0.38	32.57
ロース芯面積	23.22	9.27
バラ厚	0.37	0.74
皮下脂肪	-0.89	-0.39
推定歩留	4.14	1.72
脂肪交雑	2.96	1.56

(2) ‘元花江’の要約

‘元花江’の母‘もとはな2’は、‘安福久’のきょうだい‘なつあき’に‘第1花国’を交配して生産した雌牛で、平成22年7月に栃木県から当场が導入した。その‘もとはな2’に‘安福久’交配し、造成した‘花江’、‘福久’して名母‘もとじろう’の名血を凝縮した唯一無二の奇跡の種雄牛であり、BMSナンバー(肉の霜降り能力を表す数値)は県歴代第1位の9.8の好成績で現場後代検定(後代による枝肉調査)成績を終了したことから、肉質の改良が期待できる。

2 普及の対象及び注意事項

本牛は県を代表する‘白鵬85の3’や‘百合白清2’と血縁が薄く、両牛の娘牛との交配がしやすいことから、今後の活躍が大いに期待できる。ただし、‘安福久’の血縁が濃いので‘安福久’を父にもつ雌牛への交配を避ける。

